**口腔機能維持管理体制加算**

　指定介護老人福祉施設において、歯科医師または歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が介護職員に対する口腔ケアに係わる技術的助言および指導を月１回以上行っている場合に、１月に３０単位を加算する。

**基準内容（告示および通知の要旨）**

　１．入所者の口腔ケア・マネジメントに係わる計画（施設側）

　　①入所者の口腔ケアを推進するための課題

　　②目標

　　③具体的方策

　　④留意事項

　　⑤歯科医院との連携の状況

　　⑥歯科医師からの指示内容の要点

　　⑦その他必要と思われる事項

　２．口腔ケアに係わる技術的助言および指導（歯科医院側）

　　①入所者の口腔内状態の評価方法

　　②適切な口腔ケアの手技

　　③口腔ケアに必要な物品整備の留意点

　　④口腔ケアに伴うリスクの管理

　　⑤その他施設全体として日常的な口腔ケアの実施にあたり必要と思われる事項

**助言内容**

・入居者それぞれの方の口腔内状態とその機能を評価した上で、適切な口腔ケアを行うことを施設全体の共通理解とすることが必要です。基礎講習会に参加した方々が各職種で伝達講習会を開いてください。

・歯肉から出血するような歯周疾患に罹患している入居者は、歯科医師の診察が必要です。本人や介助者による口腔清掃に加えて、歯科衛生士による治療的なクリーニングが大切です。歯科衛生士による口腔ケアの見学も提案します。

・上の入れ歯が落ちる時の対応として、不適合な場合は修理をする。適合が良くて口腔乾燥の場合は粉状の入れ歯安定剤を使用する

・歯間ブラシの使い方、使用期限、使用後の清掃の仕方

・舌の痂皮に対する重曹の使い方

・胃ろうをされているが食べられそうな方への対応を施設内で協議、マニュアルを作る。

また、本人・家族が希望すれば、「金沢・在宅ＮＳＴ経口摂取相談会」へ多職種による訪問評価・結果報告・アドバイスを求める

・持参した「楽しく行う食前・嚥下体操」のパンフレットを利用して、個々人にアレンジして実施することを提案する。

・７／２１の講演会「多職種連携とＭＮＡについて」に参加してください

・口腔ケア時や義歯の着脱時に口を開けない方への対応

　　口唇を指で広げたり摘んだりマッサージする。

　　凍らせた綿棒で口唇や頬粘膜、口蓋を刺激する。

・研修会などに参加することにより、新しいことに気づき視野を広げる。

　７／２１の講演会「多職種連携とＭＮＡについて」に管理栄養士と介護士が参加

　　他のスタッフに伝達することにより、施設全体が共有する

・口腔ケアは、３ヶ月の時点で一区切りをつけるか、継続するかを判断する。継続する場合は、週に１回、月に１回、３ヶ月に１回となる。本人や家族の意向も聞く。

・開口状態で口腔乾燥の方はマスクを装着しできるだけ乾燥を防ぎ、口腔ケアはガーゼなどで湿潤後２分ほど待ってから行う。

・顎がはずれた方の見分け方は、口が開いたままで動かないことと、動かす痛がる

・１２／１の講演会「在宅医療、在宅介護のこれから」に参加してください

・多職種連携の仕組み作り

・長い間入れ歯を入れてない方は、昔使っていた入れ歯を修理して使い慣れてから、新しい入れ歯を作り始める

・２／２４の「金沢在宅NST経口摂取相談会チャレンジセミナー」に参加してください。

　　ＯＴ、ＳＴによる経口摂取の試みの事例報告

・口腔粘膜の剥離組織や痰などの硬化物の清掃に「クルリーナ」が有用

・寝ている姿勢、移乗方法、車いす上での姿勢を見直しすることにより、

　　　　全身の筋緊張が緩み、楽な姿勢となり、

　　　　発話のしやすさ、表情の穏やかさにもつながる

・義歯管理に対する家族の方への注意事項

１．義歯保管場所や容器を決める

２．基本的には日中は装着し、就寝時は外す

３．食後に外してきれいに清掃する

・口から食べられなくなり、胃ろうや経管栄養になった時の対応

１．口腔内が急に汚れ始めるので口腔ケアの必要度が増える

２．口腔乾燥が著しくなるので保湿に注意してください

３．分からないことがあればその都度相談してください

・車いすのフットレストをたたんで足底を床に着けて食事をすると、しっかり咬める。

７月１４日（月）の金沢在宅ＮＳＴ経口摂取相談会主催サポーター限定研修会「姿勢が変われば嚥下が変わる」に参加してください

・ベッド上のポジショニング

　１．股関節軸を合わせて、ギャッジアップしても

　　・着ているものに引っ張られて苦しい

　　・「背ぬき（背中を少し起こす）」・「足抜き（膝を少し持ち上げる）」をすると、

　　　　非常に楽になる

　　・寝かせる時も同じことが起きる

　２．５～１０cmずり落ちた状態で背板をギャッジアップすると

　　・胸部が押しつぶされ、横隔膜が圧迫され、呼吸が浅く、速くなる。

　　　　深呼吸もつらい。

　　・腹部も押しつぶされ、食欲も起きにくく、嘔吐しやすくなる

　　・仙骨部や尾骨部が褥瘡になりやすい

・歯ブラシはふつうの硬さのものを使用する。痛がる時は軟らかめで時間をかけて優しくブラッシングする。硬いものや山切りカットは使用しない。

・糖尿病の人は、歯周病(歯周疾患)が重症になりやすい。また、歯周組織の慢性感染は血糖コントロールの悪化を来たす。そして、歯周炎の治療は血糖コントロール改善につながる。

・今回のインフルエンザの感染力が強く、口腔ケアによる抑止効果が見られなかった。但し、誤嚥性肺炎への効果はある程度見られる。

・３月２日の金沢在宅ＮＳＴ経口摂取相談会チャレンジセミナーに参加してください。

　食べられるようになった事例報告と訪問管理栄養士による取り組み

・金沢在宅ＮＳＴ経口摂取相談会セミナー「在宅での食支援」を案内

・食育パンフ「お口の機能を育てましょう―歯科医師からのメッセージ」を提供

・オムツのテープを平行に付けると、お尻が前にずれて姿勢が変わりむせやすくなる。

・食べる量が急に減少した場合には、口のトラブルもあるので相談ください。